

題 目 “一途”の適応価—競争的な対人関係環境下における排他的集中資源投資行動の検討

氏 名 吉田 良平

指導教官 結城 雅樹

本研究の目的は、恋愛関係や友人関係といった親密な対人関係を形成するための、パートナー獲得戦略である排他的集中資源投資行動の適応価と、その行動を導く情熱という対人感情の関連、およびこれらに及ぼす社会生態学的環境要因の影響の検討である。

親密な対人関係の獲得・維持は、個人の適応度の上昇に寄与する。例えば、恋愛関係の形成は、子供をもうけることで個人の適応度を上昇させる (Buss, 1994)。また、友人関係の形成は、将来自分が困った状況に陥ったときに相手から援助してもらえる可能性を高める (DeScioli & Kurzban, 2009)。よって、望ましい相手をパートナーとして獲得することは重要性の高い適応課題である。

こうした親密な対人関係の形成において、情熱と排他的集中資源投資行動が重要な役割を果たすことが先行研究によって示されている。情熱は、人を対人関係形成へと動機づける (Sternberg, 1986)。排他的集中資源投資行動は、自分にとって望ましい相手に対してのみ集中的に資源を投資することで、自分が相手にコミットしていることを示す (DeScioli & Kurzban, 2009)。これらには対象特定の感情や行動であるという共通点がある。そのため、本研究では、対人感情である情熱がパートナー獲得の適応戦略である排他的集中資源投資行動を導く機能をもつという仮説を立てた。その上で、当該社会における対人関係の選択肢の多寡である関係流動性 (Yuki et al., 2007) の差異によって、パートナー獲得に伴う競争の激しさが変化し、情熱と排他的集中資源投資行動の戦略としての有効度に影響を及ぼすと予測した。

本研究では、まず、研究 1 において人々が情熱の程度と排他的集中資源投資行動に関連があるとの信念をもっていること、および排他的集中資源投資行動がパートナーの行動として魅力的だと評価することを検討した。そして、その結果を踏まえ、研究 2 において、排他的集中資源投資行動の戦略としての魅力度・戦略採択度、および関係流動性の影響を検討するために、関係流動性の異なる日本とカナダで、質問紙による国際比較研究を行った。その結果、情熱と排他的集中資源投資行動の間に一定の関連が示され、排他的集中資源投資行動がパートナー獲得戦略として有効であることが示された。しかし、その一方で、情熱や排他的集中資源投資行動と関係流動性には関連が見られず、排他的集中資源投資行動に対する評価に文化差はほとんど見られなかった。